

こども達が たくさんの夢をえがける 社会をめざして

教育機会確保法見直し事例の調査・研究

令和4年3月
特定非営利活動法人トイボックス
スマイルファクトリー



特定非営利活動法人トイボックス
〒556-0021
大阪市浪速区幸町 2-3-33
TEL.050-3733-5544



スマイルファクトリー
〒563-0017 池田市伏尾台 2-11
旧伏尾台小学校北校舎
TEL.072-751-1145



競輪の補助事業

本報告書は競輪の補助を受けて作成しました。
<https://jka-cycle.jp>



はじめに

2017 年に教育機会確保法が施行され、どんな状況にあっても学ぶことができる社会の実現に向けての動きが活性化されました。この動きを広めたい、こども達が自分に合った学びの場を選べる環境を整えたいという想いを持って、私たちはこの事業に取り組んでいます。

今年度は、3 年間で予定している調査実践活動の 2 年目として、1 年目に考えた仮説を基にしたプログラムの実施、ディスカッションを行いました。こども達や地域の方々と過ごす中で、たくさん大切なことが見つかりました。また、3 年目となる来年度に向けても、進んでいく方向性を見つけることができました。

この事業が、こども達が豊かな時間を過ごすこと、地域における学び合う機会が増えることに寄与できましたら幸いです。



目次

はじめに

準備

- | | |
|----------|----|
| 1. 仮説の確認 | 06 |
| 2. 内容の検討 | 08 |

実践

- | | |
|-----------|----|
| 1. 活動の様子 | 14 |
| 2. 地域との交流 | 16 |
| 3. 連携会議 | 18 |

ふりかえり

- | | |
|-----------------|----|
| 1. 活動の様子からみえたこと | 23 |
| 2. プログラムからみえたこと | 26 |
| 3. 連携会議からみえたこと | 32 |

まとめ

- | | |
|----------------|----|
| 1. 取り組んで分かったこと | 37 |
| 2. 今後の取り組み | 36 |

1章

2章

3章

4章



1

1 章
準備

1. 仮説の確認

ー 2 つの仮説と 5 つの取り組みー

まず、1 年目で考えた仮説について確認をしたいと思っています。1 年目では、教育機会確保法について、成立までの経過と現状を調べました。また、スマイルファクトリーのこれまでの活動についてもふりかえりました。それらを基に地域でのフリースクールの役割や独自性についてディスカッションを行い、A、B 2 つの仮説を考えました。

A は、スマイルファクトリーで過ごす子ども達の様子と、フリースクールの活動内容から立てた仮説です。一口に居場所と言っても、感じ方や居心地のよさにつ

ては、人によってポイントが違います。また、安心して過ごせる、一人ひとりが自分らしく活動できる場所として機能していくための要素についても、様々な視点と考えられます。フリースクールが持つ機能や居場所としての構成要素を明確にすることで、子ども達によりフィットした場所となるためのヒントが見つかるのではないかと考え、検証するために仮説を立てました。

B は、昨年度 3 回実施した連携会議の内容から立てた仮説です。連携会議で議論を重ねる中で、多様な教育機会を地域で実現していくためには、環境を

整える重要性和、それを支える安定した運営基盤、必要な予算が配分される仕組みを検討していく必要性が示唆されました。多様な学びの場を実現するための仕組みを追求するため、この仮説を立てました。

2 つの仮説は別の視点を持ちつつも相互に関連しているので、それぞれに沿った実践を行っていくことで、立体的に理解が進んでいくと考えました。

2 つの仮説を確かめていくために、2 年目である今年度は、以下の 5 つの取り組みを行っていくことにしました。

5 つの取り組みはそれぞれ異なる視点であるため、どのような場面で確かめていけるのかを考える必要があります。そこで、これまでのスマイルファクトリーの活動に、この 5 つの取り組みをどのように組み込んでいくかを検討することにしました。

A フリースクールの持つ居場所機能とは何を指すのか：構成要素を明確にする

B 安定した基盤づくり：多様な学びの場に必要な予算が配分される仕組みを整理する

1 日々の活動のなかで、子ども達の多様性が発揮される場の構成要素を整理する。

2 プログラムにアクティブラーニングの要素を盛り込み、自他理解や相互理解を深めるための構成要素を整理する。

3 地域の方々と連携し、プログラムを通して地域で学び合う機会を増やす。

4 池田市との連携をより強め、引き続き地域で多様な学びを提供する仕組みを協議する。

5 官民連携のモデルについてイメージしてもらいやすくなるように、情報発信を行う。

こども達と一緒に、 仮説を確かめていく

2. 内容の検討

—これまでの活動にプラスする—

スマイルファクトリーでは、学習や体験プログラム、あそびを通じた交流など、様々な活動を行っています。また、日々の活動と併せて、季節の行事やイベントも行っています。5つの取り組みを組み込む上で、それぞれに合った活動を検討しました。

①は、様々な場面でこども達と共に過ごす中で、見えてくるのではないかと考えました。こども達の多様性が発揮されるには、過ごす場所がキーポイントになるのではないかと考え、こども達と一緒に過ごす中で様子を見守りつつ、主に部屋のレイアウトや用具などの環境面を整えていくことにしました。

②は、午後のプログラムに組み込むことにしました。スマイルファクトリーでは、スクーリング日の午後に体験型の授業を行っています。今年度は、テーマと必要な材料のみ用意し、内容についてはこども達と一緒に考えてつくっていく、という形式で実施することにしました。

③は、これまで主に行事やイベントでの交流だったところを、日々の活動にスタッフとして加わっていただくことや、午後のプログラムを担当していただくこともお願いしました。こども達をあたたく見守ってくださる地域の方々との交流が増えることで、こども達がいったい豊かな時間を過ごせるのではないかと考えました。

④は、昨年度に引き続き、長年連携している池田市教育センターとスマイルファクトリーのスタッフを中心

とした連携会議の中で、ディスカッションしていくこととしました。

⑤は、今年度の事業を報告書（本書）としてまとめ、ホームページで情報発信していくことにしました。昨年度教育機会確保法の変遷と現状をリサーチした際に、普及していくための情報発信の重要性が示唆されたため、より多くの人に伝わるよう広報していくことにしました。

この5つの取り組みを軸に活動を行い、こども達と一緒に過ごしながら仮説を確かめていくことにしました。





2

2 章
実践

相互作用による、 豊かな時間

1. 活動の様子

ーやりたいことを形にできる場所をつくる。自分で決めて、みんなでつくる。ー

過ごす部屋を 合わせる

今年度をスタートするにあたり、昨年度子ども達と一緒に過ごした様子をふりかえりました。それぞれのやりたいことや関心の幅広さに合わせて、子ども達がより活動しやすくなるよう、部屋のレイアウトを変更することにしました。

スタッフルームを 子ども中心の場所に

まずは、スタッフルームのレイアウトを変更しました。これまでのスタッフルームは、子ども達がいつでもあそびに来ることができるものの、スタッフのデスクがある職員室のような雰囲気でした。子ども達があそびに来てくれる時に、その時間を大切にしたい、もっと子ども達中心の空間にしたいと思い、デスクや事務作業関連のものを別室に移しました。そして、空いたスペースにカーペットやソファを置き、子ども達がくつろぎやすいようにしました。また、子ども達同士で交流がしやすくなるように、みんなであそべるカードゲームを増やしました。その後、スタッフルームは子ども達が集まりリラックスする部屋として活用されるようになりました。

子ども達の声を 部屋に反映する

スマイルファクトリーでは、スタッフルームやプログラムで活用する大人数教室の他に、個室やパーティションで区切られた部屋など、過ごし方に合わせて様々な部屋が活用されています。部屋の活用のされ方は子ども達の過ごし方に合わせて毎年変えているのですが、今年度はそこに一工夫加えてみました。子ども達がそれぞれの部屋についてどのようなイメージを持っているのかを尋ねてみるため、午後のプログラムで、部屋の名前とビクトグラムを募集してみました。子ども達からはゆっくりする部屋、みんなで遊ぶ部屋、やりたいことに集中する部屋といった声がたくさん聞かれました。そこで、他の部屋についても、デザインやレイアウトを合わせていくことにしました。

目的に合わせやすい 部屋をつくる

活動の中心で使う教室の隣は、広くスペースを取り、制作や少人数の活動で使いやすいレイアウトにしました。パーティションで区切られた個室には、集中して勉強しやすいように机と、ゆったり過ごせるようにソファを置きました。部屋の用途を広げたことで、絵を描いたり工作をしたりなど、やりたいことをしやすい空間として活用されるようになりました。また、静かに過ごしたい、ゆっくりしたい時にも、活用されるようになりました。

地域の方々にも 居心地のよい場所をつくる

スマイルファクトリーは、休校になった旧池田市立伏尾台小学校の2階で活動（3階はスマイルファクトリーハイスクールが活動）していますが、1階部分は、地域の方との交流に使われています。今年度はエントランスのレイアウトを変更し、ベンチやドクターフィッシュの水槽を置くことで、地域の方々にもくつろいでもらいやすくしました。

1階には軽食やお茶が楽しめる「スマイルカフェ」もあり、連日子ども達や地域の方々で賑わっています。今年度はカフェの設備を拡充し、軽食だけでなく、日替わり定食や手作りデザートも出せるようになりました。日替わり定食は好評で、子ども達は毎朝メニューの発表を楽しみにしています。

体育

1度のプログラムで複数のスポーツやレクリエーションを実施し、関心のあるものを選択する形にしました。子ども達は、全てに参加したり1つのスポーツをやり続けたりしており、それぞれのペースで活動していました。中には、どれも違うということを確認した上で今自分がしたい別の運動を見つけ、夢中になっている子ども達もいました。子ども達自身が自分でやりたいことを決め、無理なく自分のペースで体を動かすことを楽しんでいる様子でした。また、初めて会った子ども達が体育をきっかけに仲良くなるなど、体を使ったあそびを通して交流が深まる様子も見られました。

美術

きれいではなくうつくしいもの、をテーマに、毎回思い思いの作品をつくっています。今年度はそれぞれの作品づくりやイベントの飾り付けづくりに加え、段ボールで大きなサボテンをつくり、スタッフルームに飾りました。また、スマイルファクトリー版の人生ゲームをつくってみんなで遊んだり、人生ゲームの中で保険について学んだりしました。スタッフが語る架空の物語を伝聞して想像した“伏尾の主”を描くこともしました。子ども達は作品づくりを楽しむだけでなく、自分以外の作品についても面白がり、つくった人の想いを大切にしていました。

家庭科

新型コロナウイルスの感染予防対策を十分に行った上で、調理実習を行いました。お弁当づくりをテーマに、主食や主菜、副菜をつくる班に分かれて行いました。どのようなお弁当にするか、みんなで決め、レシピ本を見ながら各班でメニューを検討しました。予算を頭に置きながら細かく材料について考える班や、なるべく簡単につくれるメニューを探す班など、それぞれ大切にしているポイントは違うものの、熱心に話し合っていました。当日は決まったメニューに加え、余った材料で何品かつくる子もおり、賑やかな昼食となりました。

プログラムを合わせる

午後のプログラムは「体験すること」を中心としており、異年齢の子ども達が一緒に活動する中で、それぞれが自分のペースで楽しめることを大切にしています。今年度は、子ども達の主体性がよりいっそう発揮されやすくなるよう、テーマと材料（使うもの）はあらかじめ設定し、内容は子ども達と一緒に決めていくという形をプログラムの一部に取り入れました。

プログラムを通して、子ども達は自分自身の興味関心を深めたり広げたりしたようでした。また、好きなことでつながって友達が増えたり友達が好きなもの好きになったりする様子も見られました。子ども達同士の相互作用によって、豊かな時間となりました。

学習サポート会

スマイルファクトリーの午前の活動は、それぞれのペースで今関心のあることに取り組む個別学習の時間になっています。今年度はもっと集中して勉強したい、スタッフにたくさん教えてほしい、という希望が多かったため、スクーリングのない日に予約制で少人数の学習サポート会を開くことになりました。参加する子ども達は、静かな部屋で長い時間集中して取り組んでいました。また、友達の参加に刺激を受けて参加することも多く、和気あいあいとしながらも、それぞれ自分のやることに集中して取り組んでいました。

ワークショップ

夏休みには、普段より一歩踏み込んだ内容のプログラムを実施しました。ペットボトルロケットの実験や水遊びなど水を使ったものやエコバッグづくり、廊下の壁に絵を描くウォールペインティングなどを行いました。壁に絵を描くことに子ども達は最初とまどった様子でしたが、やりだすと色を混ぜたり型を使わず描いたり、それぞれが楽しみながら参加していました。また、リクエストの多かったダンスレッスンを地域の方に担当していただきました。ダンスのレッスンは好評で、夏以降も午後のプログラムとして実施しました。

季節のイベント

秋の「スマイルフェスタ」や冬の「クリスマス会」では、これまで通り子ども達が主体になって設営や準備を行いました。フェスタでは、準備からよく話し合って、1からブースの形をつくりました。フリーマーケットで値札のつけ方を工夫して会計をスムーズにできるようにしたり、カフェブースでメニューに和菓子を取り入れたり、新しい工夫を加えていました。クリスマス会では、飾りつけや楽器演奏、ケーキづくりなど、自分たちのやりたいことに分かれ、協力して準備をしました。夏のワークショップから始まったダンスはクリスマス会でも披露され、会場を盛り上げました。

密に連携をとり、 こども達に 寄り添った 居場所をつくること

2. 地域との交流

ー多様な機会を共に過ごすー

池田市立山の家で活動をスタートさせたスマイルファクトリーは、現在、旧池田市立伏尾台小学校に場所を移して活動しています。伏尾台地域の方がスマイルファクトリーの活動をあたたかく見守ってくださっているおかげで、こども達ものびのびと過ごすことができます。「地域の方々と交流がもっと増えたら、こども達の過ごす時間がより豊かになるのではないか。」と思い、イベントや季節の行事だけでなく、日々の活動にスタッフとして参加していただくことにしました。

今年度は、毎日2名ほどの地域の方がスタッフとして加わってくださり、こども達と一緒に過ごしていただきました。あそびや勉強を通しての交流に加え、スポーツや音楽、生き物飼育といったそれぞれの専門性に基づいた関わりもあり、こども達の興味関心が広がった様子が見られました。また、午後のプログラムの担当や、ダンスのレッスンをしてくださることもありました。地域スタッフとの交流は、こども達が自分の好きな時間を増やす機会となったようでした。

1階のスマイルカフェでも、地域の方々がスタッフとして加わってもらっています。こども達の様子を見守ってくれていることもあってか、カフェは飲食をする場所だけでなく、休み時間や放課後に過ごす居場所にもなっています。また、カフェのスタッフとスマイルファクトリーのスタッフが、こども達の様子を共有するミーティングを定期的 to 実施しました。双方の視点から見たこども達の様子についてディスカッションすることで、こども達への理解を多角的に深めることができるようになりました。

イベントでの交流は、今年度もたくさんありました。初夏にはじゃがいもの収穫や田植えを体験させてもらいました。これまでは一人で過ごすことが多かったこともが、課外活動を通じて周囲との仲が深まり、それ以降みんなと過ごすことが多くなった、ということもありました。秋にはさつまいもを地域の方と一緒に掘りました。地域の方が「私らがこどもにあそんでもらってる」とおっしゃっていたことが、スタッフとしては印象に残っています。また、年に1度地域の方をお招きして開催しているイベント、スマイルフェスタでは、今年もたくさんの地域の方が来ていただきました。

こども達が過ごす日々を豊かにしていくという意味では、こども達が所属している原籍校、池田市教育センターとの連携も欠かせません。原籍校とスマイルファクトリーが連携をとることで、それぞれの強みを活かした環境が構築でき、こども達や家族がニーズに合わせて活用できる状況をつくることができます。また、池田市教育センターとスマイルファクトリーが連携をとることで、自治体の基盤に支えられた上で民間機関が持つ柔軟性が発揮でき、こども達に寄り添った居場所をつくることができます。

地域の方々と一緒に活動することで、こども達は多様な大人と過ごすことができ、たくさんの価値観にふれられる体験ができました。また、スタッフにとっても地域の方々とこども達について考えることでスマイルファクトリーを俯瞰的に見ることができ、新たな気づきを発見することができました。

3. 連携会議

ー多様な教育機会の実現に向けてー

多様な教育機会を地域で実現していくには、どのような仕組みが必要か。そのテーマを追求していくために、昨年度に引き続き、全3回の連携会議を実施しました。池田市教育センターとスマイルファクトリー、長年教育現場に携わってこられた方々にも加わっていただき、意見交換をしました。

【会議参加者】 ※敬称略

山田 智司（池田市教育センター 所長）
戒能 千恵（池田市教育センター 副所長）
宮前 孝雄（元池田市小学校校長）
栗田 拓（特定非営利活動法人トイボックス 代表理事）
田畑優介（特定非営利活動法人トイボックス）

第1回 2021年8月6日（金）

テーマ

活動報告と地域連携について

主な内容

- 今年度事業の目的の共有
- 今年度の活動内容の報告
- 時代に即した学びの場の構築に向けて

第2回 2022年2月25日（金）

テーマ

多様な教育機会の地域での実現に向けて

主な内容

- フリースクールの機能に生じている変化について
- 地域連携と住み分けについて
- 政策、枠組みを見直す必要性について

第3回 日時：2022年3月4日（金）

テーマ

今年度のふりかえりと来年度の方向性の確認

主な内容

- 活動の様子から見えたことについて
- 活動を地域に広げるためにできること
- 目標を伝えるための表現方法について

第1回では、時代の変化に伴う学びの場の変化をテーマに、様々な意見が出ました。また、こども達が学ぶ環境を整備していく上で、地域の方々の存在が大きな支えとなっていること共有され、地域一体となっていくことの重要性が改めて確認されました。

第2回では、第1回の内容について、より踏み込んだ議論がなされました。フリースクールの役割が学校復帰のつなぎとされる場所から個々の目標に合わせた活動ができる場所へと変化してきていることについて、フリースクールが寄与する目的を見つめ直す必要性が話し合われました。フリースクールが寄与する目的を考える上で地域の様々な資源、専門機関について理解を深めて住み分ける必要があることや、周囲への理解を深めることが、フリースクールの独自性を深めることにつながるなどについても、意見交換が行われました。活動を持続可能なものとしていく予算や枠組みについては、行政と民間が連携、分担をしながめざしていくこととなりました。

第3回では、第1回、第2回で協議した内容をふりかえり、仮説を実践検証して分かったことを整理しました。その結果、多様な学びの場の実現をめざし、地域の方々と専門機関が連携した教育プラットフォームをつくることを来年度の目標としました。

全3回の連携会議を通して、フリースクールの機能

や地域の方々の存在の大きさ、行政と民間がそれぞれの強みを活かして仕組みづくりを協働していくことについて、協議することができました。

特に、多様な学びの場を形成するためには、様々な機関が連携して地域一体となっていくことが重要である、という結論が出たことは、活動を広げていく上で大きな進展だったように思います。

連携会議でディスカッションされたことは、こども達と過ごす環境を、よりこども達に寄り添ったものにするための指針となっています。



3

3 章

ふりかえり



1. 活動の様子から見たこと

—居場所が居場所になり得るには—

今年度の活動をふりかえると、こども達が自分らしく過ごしていくためには、やりたいこと、好きなことに取り組みやすい環境があることが大切である、と言えそうです。部屋のレイアウトをこども達に合わせて変更することで好きなことに集中しやすくなり、興味関心を深めている様子が見られました。また、友達に触発されることで、興味関心や交流関係が広がることも見られました。目的に沿った部屋、目的に合わせやすい部屋があることは、こども達の興味関心と交流の両方を深めることに効果を発揮した様子でした。

こども達の関心やリクエストがきっかけでデザインされた環境も、今年度は多々ありました。より集中したいというリクエストに端を発した学習サポート会は、友達に刺激を受けて参加するメンバーが多く、いい雰囲気をみんなでつくっていました。ダンスのワークショップは参加したこども達の満足度が高く、その後も定期的に開催されることになりました。

こども達の関心やリクエストが形になったことで、充実した時間となった様子でした。

また、地域の方々の存在も、豊かな環境を構築する

上で重要でした。活動を通してこども達と交流してくださることは、こども達にとって、多様な学びの機会となりました。スタッフにとっても地域の方々と活動を共にすることでこども達を理解する視点が立体的になり、いっそうこども達に寄り添った関わりをするヒントをいただきました。地域の方々のおかげで、スマイルファクトリーという環境を、こども達にとってより豊かな学びのある居場所とすることができました。

居場所について場所、時間、人という視点から考えると、居場所には、やりたいことに取り組みやすく、関心のあることが実現できる環境である、という要素が必要だと考えられます。また、過ごす場所だけではなく、友達や地域の方々、スタッフといった一緒に過ごす他者の存在もまた、居場所としての大切な要素と考えられます。やりたいことや好きなことに取り組み、それを大切にしてくれる人達と過ごしていけるような場所が、居場所となり得るのではないのでしょうか。

やりたいことに
取り組みやすく、
関心のあることが
実現できる環境

ZZ

一緒に楽しみ、 一緒に学び合うことで、 こども達の 主体性の尊重する

2. プログラムからみえたこと

—多様な教育機会とは—

今年度のプログラムは、こども達の主体性が発揮されやすくなるように、という意図を持って実施しました。テーマと必要なものを用意してこども達が主体となつてつくっていくという方法によって、こども達のやりたいことをその場で形にしていけることができました。こども達の主体性が発揮されたことにより周囲の主体性も引き出され、相互作用によってより豊かな学びの機会となりました。

また、地域の方々にスタッフとして加わってもらったことで、ダンスや生物など、関心のあるものを深めることができ、より多様性に富んだプログラムを実施することができました。地域の方々の力により、学びの場としての幅を広げることができました。

各プログラムのねらいは異なり、今年度はプログラムの幅が広がることでそのバリエーションも広がること

となりましたが、共通する点もあります。それは、一緒に過ごすこども達一人ひとりが、自分のペースで楽しめるように、ということです。内容が幅広くなるからこそ、共通した大切さを持つことが必要なのではないのでしょうか。

こども達一人ひとりが自分のペースで過ごしているか、楽しいと思えているかを主眼に置くことで、プログラムが違っても、こども達の主体性を尊重した統一感のある活動ができるのではないのでしょうか。そのためには、こども達の日々の様子の反映や、こども達のことを関心を持って理解し続けようとする姿勢が求められます。スタッフもこども達と一緒に楽しみ、一緒に学び合うことで、こども達への主体性の尊重につながると考えています。

どこにでも
居場所がある、という
感覚を抱けるような
地域をめざす

3. 連携会議からみえたこと

—地域が協力していくためには—

連携会議でディスカッションを行う中で何度も話題に挙がったことは、フリースクールの機能が変化してきているということでした。時代の変化に伴い、フリースクールの役割も、多様な学びの場としての機能が求められるようになってきているように思われます。

教育機会確保法が施行されたことにより、様々な場所で学びの多様性を広げる動きが活性化されました。学校だけでない学びの場が選べるようになったことで、自分に合った学びを通してそれぞれの目標に向かっていける道筋が広がりました。個々に合った学びの場が保障されることで社会につながっていく道筋も増え、ゆるやかにつながっている社会への動きも活性化されているように思います。

社会、地域とのつながり方については、今後さらに突き詰めていきたい事柄です。地域には、公的機関や

専門機関など、様々な資源があります。それらにはそれぞれの特色や強みがあり、多様な学びの場としては、どれも大切な選択肢となります。1つの場所や組織が多様な学びの場を担うのではなく、地域にある様々な機関が連携していく形の方が、より豊かな選択肢をつくることができるでしょう。この形を実現していくには、それぞれの機関が互いの違いを尊重し合い、各々の特色や強みを深めていく必要があります。どこにでも居場所がある、という感覚を抱けるような地域をめざしていくことが、今後の在り方なのではないでしょうか。

地域で安心して過ごせる居場所や自分に合った学びの場をつくるためにも、枠組みや制度設計についても公的機関と民間機関が連携協議していくことで具体的な手立てを検討していきたいと思います。





4

4 章
まとめ



柔軟な動きによって こども達の主体性が 発揮されやすい 環境をデザインする

1. 取り組んで分かったこと

—地域の中でフリースクールが担える役割—

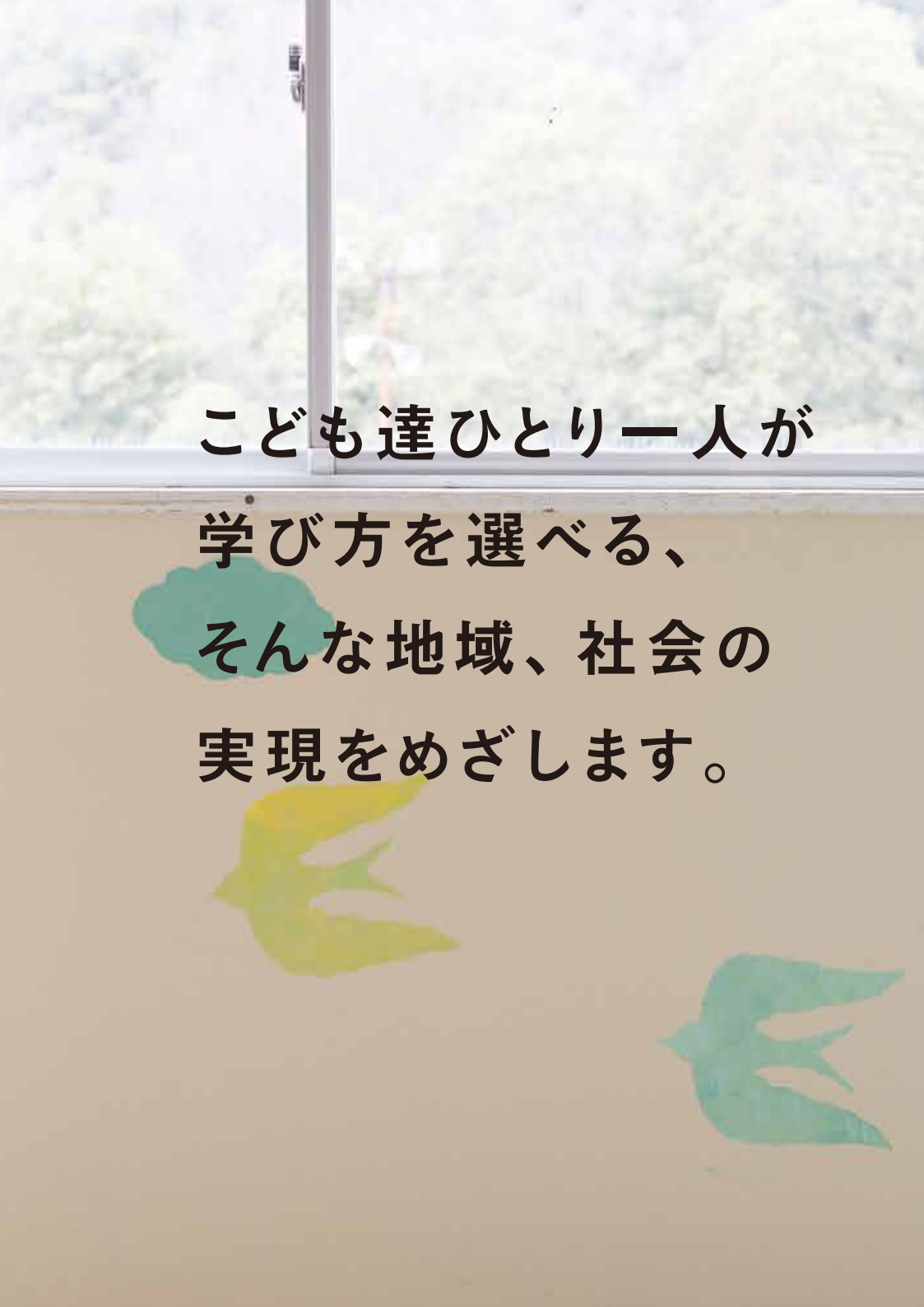
今年度は、スマイルファクトリーの活動を通して、2つの仮説について確かめました。どちらの仮説についても、こども達、そして地域の方々と一緒に活動する中で、ヒントが見つかりました。

Aについては、こども達の様子に合わせて環境（空間、プログラム、関わる人）をデザインすることが、柔軟な動きのとりやすいフリースクールの独自性につながると考えました。つまり、こども達がやりたいことや思ったことを形にできることが、フリースクールの居場所としての機能である、といえるのではないのでしょうか。

Bについては、多岐に渡るこども達の関心や学びに応えていくためには、単一の施設やスタッフでまかなうのではなく、ニーズに適した地域資源が活用される

ことが必要であるという結論に達しました。学ぶ環境を支える予算、運営基盤については引き続きディスカッションをしつつ、連携の輪を地域に広げていくことが、次の目標となりそうです。

2つの仮説を通して、多様な学びの実現には地域一体となって取り組むことが必要であり、柔軟な動きによってこども達の主体性が発揮されやすい環境をデザインすることが、地域におけるフリースクールの役割である、ということが示唆されました。こども達が安心感を抱ける場所として機能していくことを大切に、多様な教育機会の意義とめざしていく共通のテーマを発信することを通して学びの場を広げていくこともまた、フリースクールが担える役割だと考えます。



こども達ひとり一人が
学び方を選べる、
そんな地域、社会の
実現をめざします。

2. 今後の取り組み

—地域に活動の輪を広げていくために—

今回の実践を通して、多様な学びの場をつくっていくためには、こども達の主体性が発揮されるような環境を、地域一体となって実現していくことが大切であることが確かめられたように思います。

今後は、今年度の結果を基に、民間と自治体が連携して多様な学習機会を提供する教育プラットフォームを構築することが状況を良い方向に向けていくための鍵となる、という考えのもと事業を実施していきます。

3年目である来年度は、多様な学習の機会をより広

く定義し直し、公教育とフリースクールに加え、子育て支援やスポーツ振興に取り組む団体などまで連携を広げていきたいと考えています。

教育・子育て支援・まちづくりといった施策横断的な観点にたち、学校、フリースクール、子育て支援やスポーツ振興に関わる地域団体が連携した、こども達が自分にあった学習の場を選べる教育プラットフォームを構築していきたいと思います。

こども達ひとり一人が自分に合った学び方を選ぶことができる、そんな地域、社会の実現をめざします。



